

保育所等における保育の質の確保・向上に関する検討会
(第2回)
議事次第

平成30年6月12日
10:00～12:00
中央合同庁舎5号館 共用第8会議室

1. 開 会

2. 議 題

(1) 保育所等における保育の質の確保・向上について

(2) その他

3. 閉 会

< 配付資料 >

資料1-1 普光院構成員提出資料

資料1-2 松井構成員提出資料

資料1-3 社会福祉法人はとの会理事長 瀬沼幹太氏提出資料

資料1-4 社会福祉法人仁慈保幼稚園理事長 妹尾正教氏提出資料

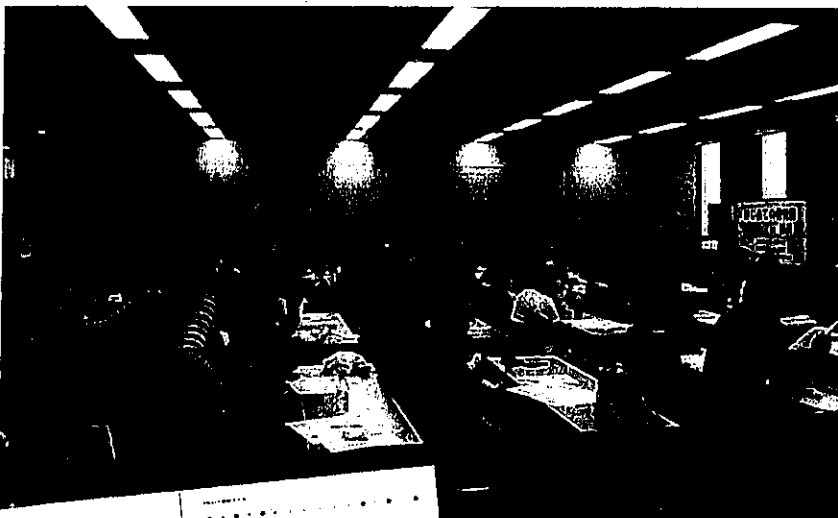
資料2 今後の検討スケジュールについて (案)

保育所等における保育の質の確保・向上に関する検討会

保護者等の観点から見た質の課題について

保育園を考える親の会 代表
普光院 亜紀(ふこういん)

[保育園を考える親の会について]



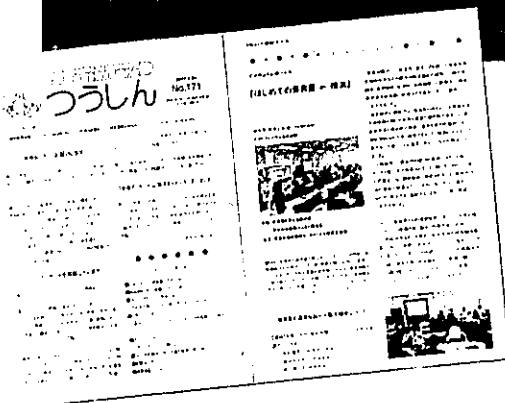
ANNUAL SURVEY

東京都保育力充実度チェック

100都市
保育力充実度チェック

『保育に関する調査』の経緯
2017年版

調査協力
東京都保育力充実度チェック
調査協力
東京都保育力充実度チェック
調査協力
東京都保育力充実度チェック

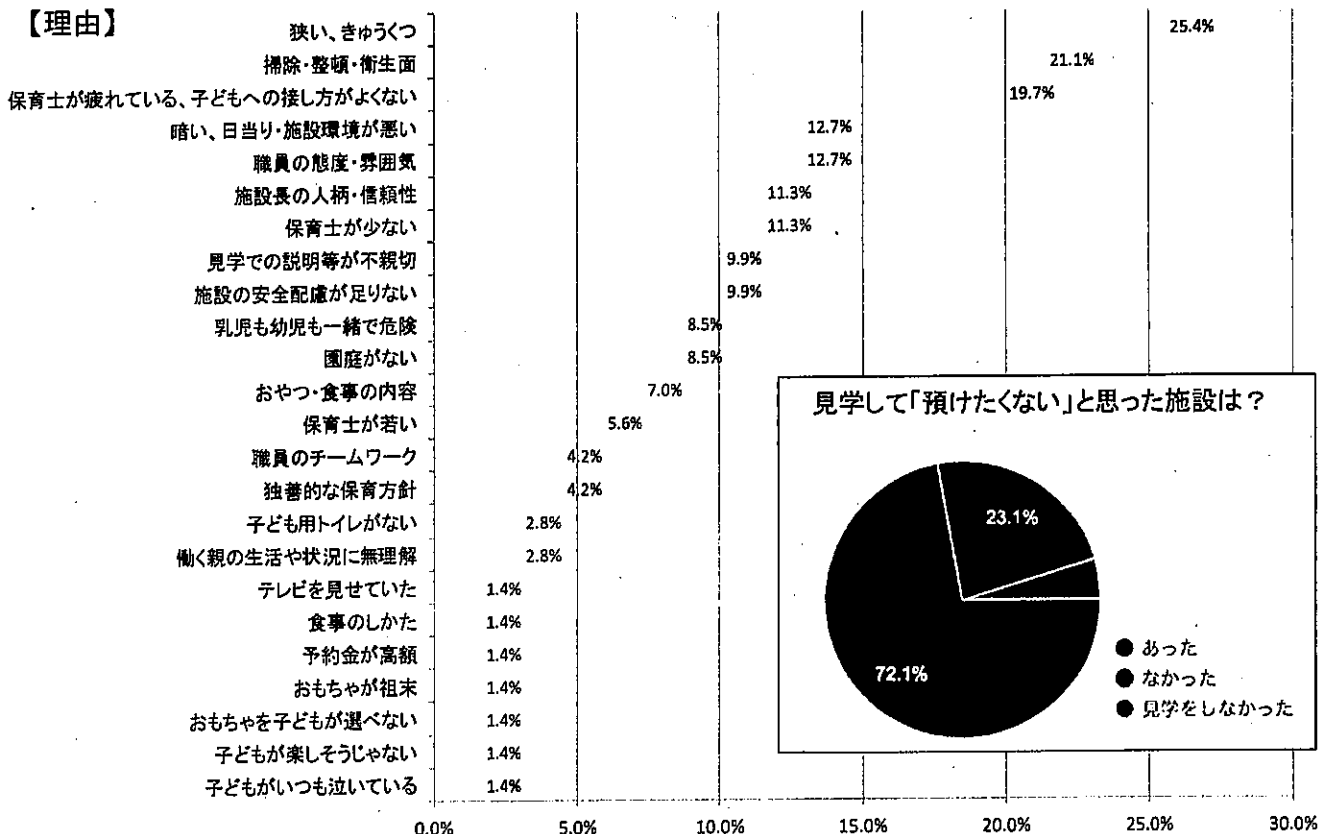


since 1983
働く親のネットワーク。
首都圏中心に400名弱の会員。
情報交換、交流による支え合い。
調査、意見表明、出版。

保護者から見える「保育の質」

保護者が見学して預けたくないと思った保育施設

保育園を考える親の会 会員アンケート2016

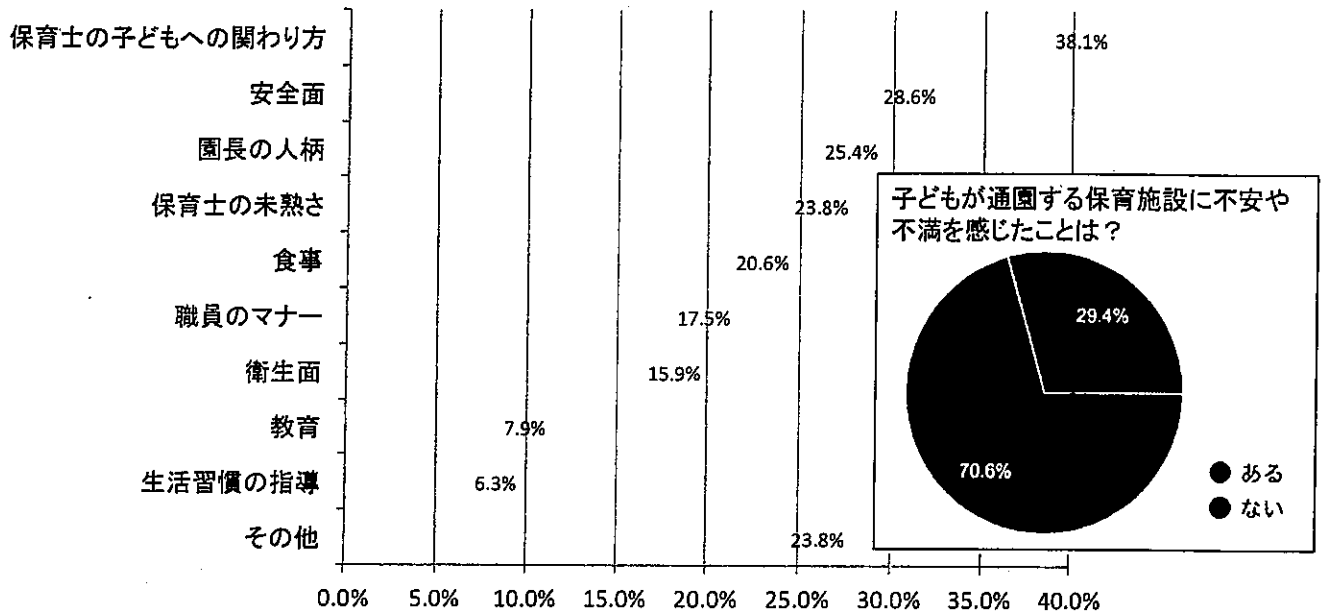


71件(=100%)の自由記述の要素分類。見学したのは認可保育所、小規模保育、認証保育所、その他の認可外保育施設など。「狭い」18件の施設内訳は、認証保育所10件、小規模保育3件、その他の認可外3件、区の保育室1件、認定こども園1件。

子どもが在園する保育施設への不安・不満

保育園を考える親の会 会員アンケート2016

【内容】



「不安や不満を感じたことがある」と答えた回答者に、選択肢式・複数回答可で回答してもらった。有効回答63件を100%としたときの得票率。

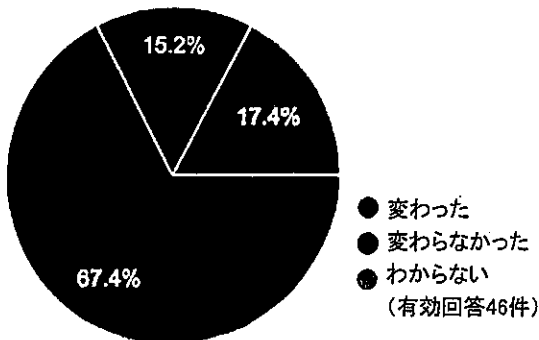
「その他」の記述:「保育士さんと話す時間」「園庭がない(2)」「外遊びが少ない」「運動スペースの狭さ」「生活環境」「ケガ」「延長保育の定員」「保育時間、次年度の受け入れ可否」「禁止事項の多い管理の仕方」「持ち物の不備に対し親を執拗に責める、子どもの物の管理が杜撰、散歩が少ない、制服がある」「制度に関する知識不足」「園長ではなく主任保育士が実質最高権限者で、園運営が独裁的な面があった」「定員不足」「無認可の新設園だったため漠然とした不安があった」

5

入園の前後で変わる 「保育の質」として大切に考える事柄

2018年5月 保育園を考える親の会 臨時アンケート

▼あなたが保育園等に子どもを通わせる前と後では、「保育の質」として大切に考える事柄が変わったか。



▼「変わった」のはどんなことか？

自由記述回答(31件)を要素分類。数字なしは1件。

【入園前に気にしたこと、イメージ】
 入れたらどこでもいい(4)
 認可園ならどこでも同じ
 園庭・施設などハード面(4)
 保育士は単に世話をする人、遊ぶ人(2)
 保育士はベテランがいい
 英語やお稽古ごと(2)
 親へのサービス(2)

【入園後に気づいたこと】

保育の質は妥協してはいけない
 親の都合より子どもための保育の質(4)
 子どもが安心して楽しいこと(3)
 保育士の子どもへのかかわり、遊びの質(6)
 保育士の0歳児保育の専門性
 保育士によって子どもの育ちが違う(2)
 保育士の資質(5) *うち、悪い発見が2件
 保育士のゆとりや意欲(2)
 保育士の待遇や定着率(4)
 とともに育ててくれ、導いてくれる(2)
 生活の場としての質
 安全・健康面(2) *うち、悪い発見が1件
 園庭など戸外遊び環境(2)
 保護者のコミュニティをつくれる

6

見学・転園した保護者の声から 「その差は驚くべきものでした」

質が高いと思った園

- ・ [運営] 子どもへの思いやあたたかいまなざしを持って運営している。
- ・ [配置] 一年を通じて同じ先生に見ていただけました。
- ・ [保育内容] 子どもたちとの向き合い方に一生懸命で全力。
- ・ [保育内容] 声かけ、読み聞かせ、外出、子どもの成長に合わせて興味のもてる遊びをするなどが細やか。
- ・ [ゆとり] 保育士が仕事を楽しんでいる。ゆとりがある。
- ・ [子ども] 子どもが安心して通える。

質が低いと思った園

- ・ [運営] とにかく子どもの生活を回すことに必死。
- ・ [配置] 保育士の入れ替わりが激しく、一年で担任全員が変わった。
- ・ [保育内容] 子どもに言うことを聞かせることに必死。
- ・ [保育内容] ユニークな試みや英語や絵画をやっている、子どもが安心できていない。
- ・ [子ども] 園によって、担当する先生によって、子どもの育ちが違う。
- ・ [子ども] 先生の態度(見下す、ダメと決めつける)を子どもがマネする。

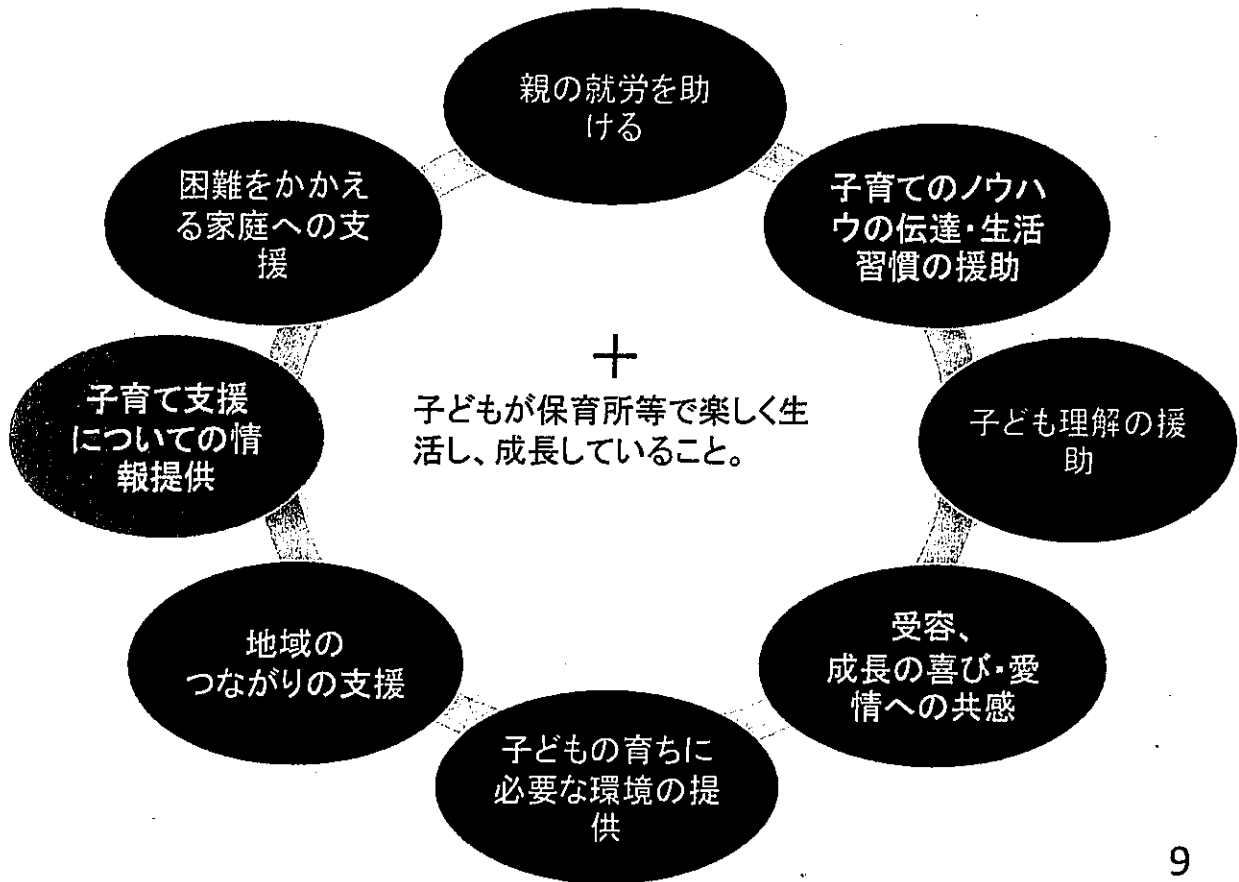
質の低い保育は子どもの人権を侵害する。

7

保護者と子どもが支えられる 保育の姿

保育所等の保護者支援の8つの力

普光院作成。保育園を考える親の会に届く保護者の声から分類抽出。



親の就労を助ける

- ・ 育休明けで初めて子どもを預けた時に、なかなか子どもが保育所に慣れれず一日中泣いて過ごしていることが辛かったが、その時の先生が丁寧に日中の様子を伝えてくれて、励ましてくださったことがとても支えになり心強く、仕事復帰や育児との両立、子どものケアなど助けられて感謝しました。

子育てのノウハウの伝達・生活習慣の援助

- ・ 保護者懇談会で、幼児クラスになれば自立の方向へ、(朝の支度など)母親が手出ししすぎずにと、話してくれました。
- ・ 手あそび、手作りおもちゃなど、子どもとのコミュニケーションの材料を知り、勉強になった。

子育てのノウハウの伝達・生活習慣の援助

子ども理解の援助

- ・ 「自分で身支度ができなくて…」と相談したときに、「家ではおかあさんに甘えたいんだと思いますよ。保育園ではしっかりやっているので何も問題ないです」と子どもの気持ちを代弁しつつ、安心させてくれたこと。
- ・ ケンカをした時も、いつも双方の気持ちを確認し、自分の気持ちを言語化して伝えること、相手の気持ちを聞くことを繰り返し教えてくれました。親としても「まずは子どもの気持ちを聞くこと」(イタズラも、悪意でしているのではなく子どもなりの理由がある)を保育園で学びました。

子育てのノウハウの伝達・生活習慣の援助

子ども理解の援助

- ・ 個人面談で、2歳児の「やる気(自主性)」の大切さを、かなり具体的に教えていただきました。以後、子どもを肯定的に受けとめることに親が注意深くなり、子どもも前向きになってきました。
- ・ 年3回のクラス別保護者会で、年齢に応じた発達の見通し(イヤイヤ期、いっちょ前の3歳児)などを説明してくれること。適切な靴について、具体的な情報提供してくれること。年齢に応じた友だちとの関係について説明してくれること。

子ども理解の
援助

- ・ 参観後の面談で「娘は協調性がないように見えたが大丈夫だろうか」と相談すると、先生が「2歳の頃はまだ集団で行動しないもの。むしろまわりに流されないのがHちゃんのいいところ」と言われ、ハッとしました。
- ・ 子ども同士の関わりを通して社会性（友だちのけんかを仲裁したり、なくさめたり）を伸ばすように大人は見守るようにしていると知り、この保育園で集団生活を送ることができて本当によかったと思った。

受容、
成長の喜び、
愛情への共感

- ・ 連絡ノートに、親バカ話を書くと、「園でもこんなことやりましたよ～」と、とってもかわいいエピソードを返してくれます。いつも連絡ノートを読んで、元気をもらっています。
- ・ 「こんなこと出来るようになりましたよ」「あつという間に大きくなりますね」とたわいもない会話すべてに感謝です。夫は単身赴任、実の母は遠方という環境で子育てしていると、子どもの成長とともに、その場でリアルに喜びを分かち合える人がいないんです。

受容、
成長の喜び、
愛情への共感

困難をかかえる
家庭への支
援

- ・ 夫が単身赴任になったとき、私一人でやりくりしなければならぬ大変さを理解してくれて、子どもが一時、情緒不安定になったときも、子どもを抱きしめてくれたりして、気持ちに配慮してくれた。

困難をかかえる
家庭への支
援

- ・ 自己主張が強くなった2歳ごろの時期はノイローゼになりそうでした。保育園の先生方が一緒に子育てしてくれていなかったら、虐待の当事者になっていたのでは、と思います。

11

子どもの育ちに
必要な環境の
提供

- ・ 毎日どろんこになって遊んでいること。自分（母）ひとりでは、（乳児もいるし）とてもできない。
- ・ クラスでピーマンを栽培し、収穫した日。息子は「れいたちのピーマン入った！」と大喜びだったそうで、その日を境に大嫌いだったピーマンが食べられるようになり、自信をつけたようです。

子どもの育ちに
必要な環境の
提供

- ・ 母親だけではためらいがちな、体を動かす遊びをたっぷり取り入れてくれ、感謝しています。
- ・ 保育園に行くようになって、自分でやりたいという意欲が高まったように感じます。お友達がいることも大きく影響しているように思います。

地域の
つながりの支
援

- ・ クラスのほかの父母と話したり、ほかの子どもの様子を見て、自分の育児に自信をもったり、見つめなおしたり、考え方を変えたり、と多くの刺激が与えられた。
- ・ 父母会があり、先輩ママが色々教えてくれたり他のクラスのママとも交流が持てて良かったと感じています。卒園した今も、出勤時の朝に会うと子どもの話に花が咲きます。

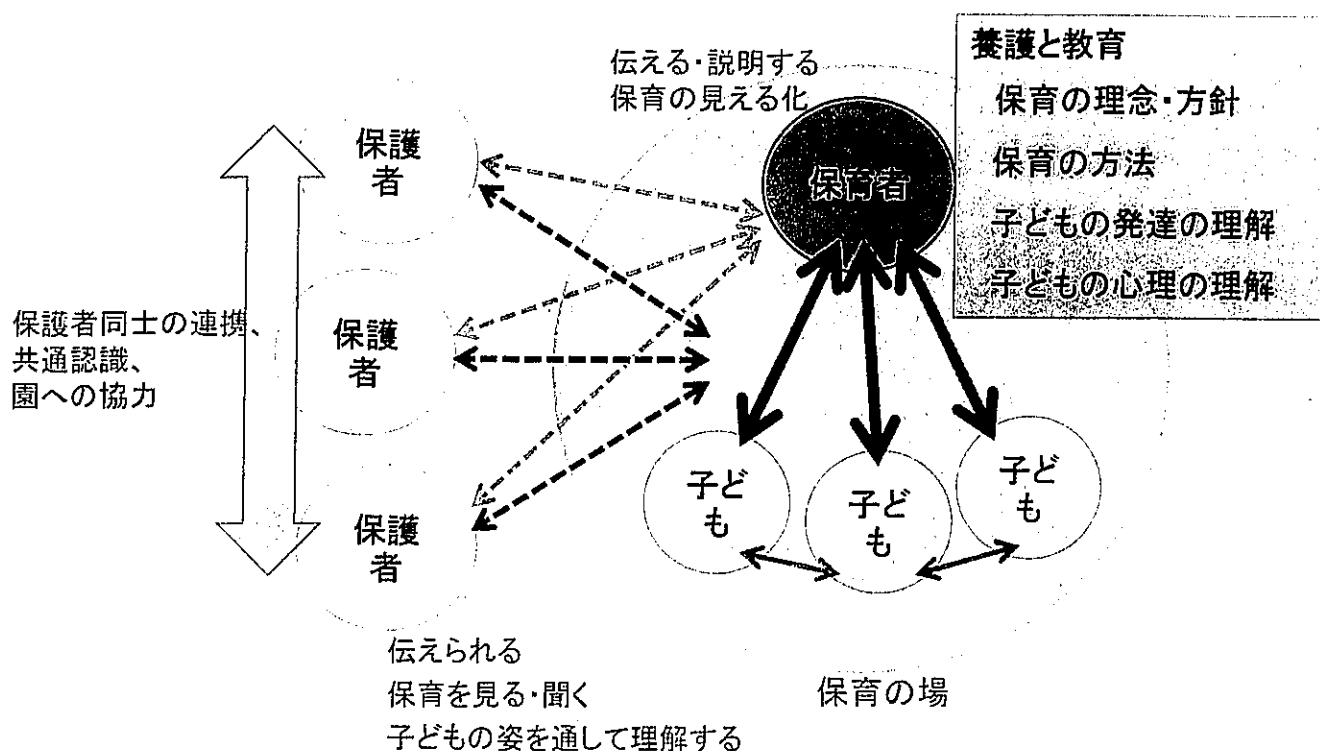
12

「生活の場」であることの強み

- 子ども同士が、遊びはもちろん、生活をともにすることによっても「協同的な学び」が生まれる。
- 保育所における生活そのものの中に様々な「学び」の素材がある(日常的な食育など)。
- 子ども自身が生活習慣・健康管理を実践する場であり、保育の専門性に基づいた援助が行える。
- 保護者の就労を支え、子どもの日中の生活を支えるという緊密な関係性のもと、家庭を包括的に支援できる。
- 家庭や子どもの変化(SOS)に気がつきやすい。

13

保育の質と保護者支援の関係

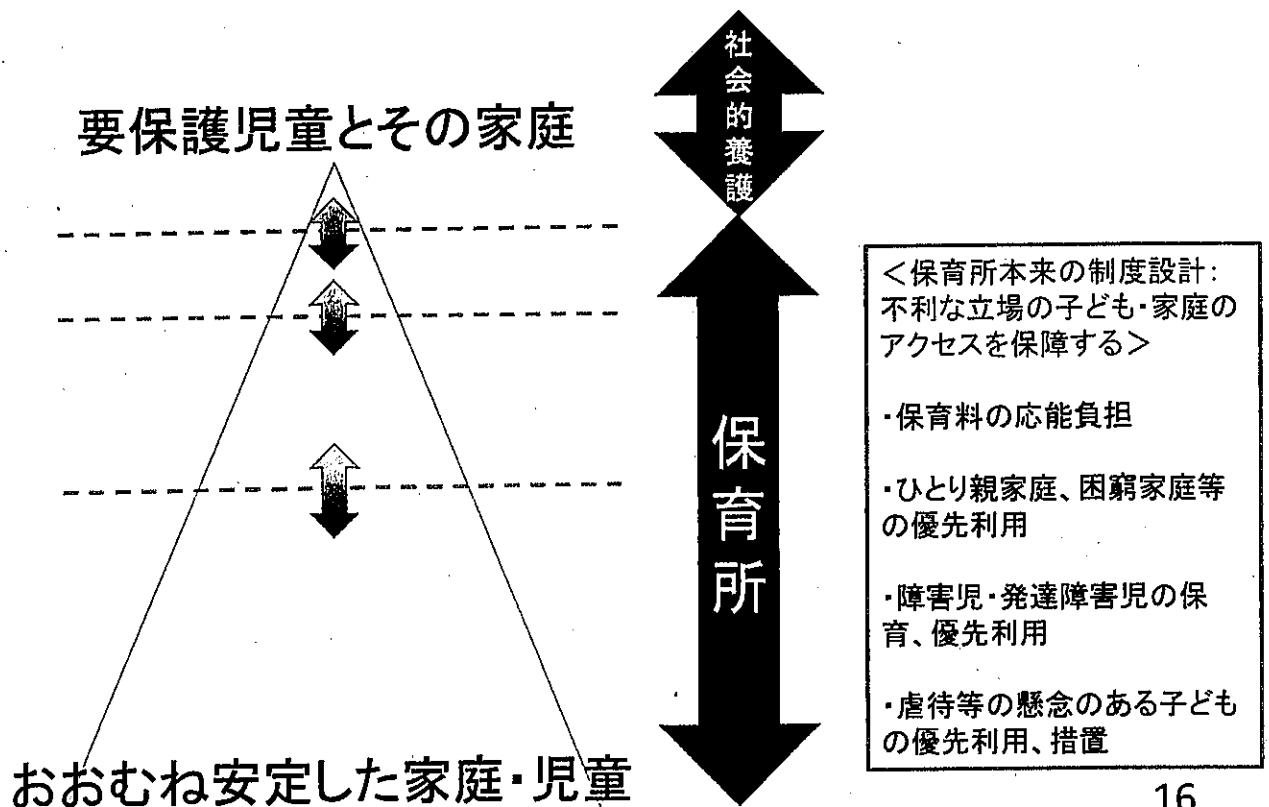


<質の高い保育は、質の高い保護者支援を実現する> 14

養育困難予防のための支援の質

15

保育所は多様な家庭の子育て支援を担っており、
社会的養護と境を接している

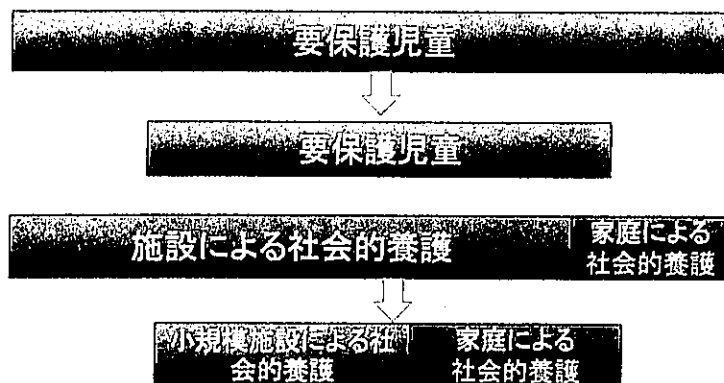


16

保育所等は 社会的養護に至る前の段階で 家庭を支援する役割も担う

保育所等は、日々子どもの保育を実施しながら、保護者と接し、子どもの発達や生活の状態、保護者の養育や生活の状態を把握できる立場にある。必要な場合には、支援を自ら行ったり、他の支援につないだりできる機能も有している。この支援の質も、保育の質の延長線上にある。

2016年児童福祉法改正。「家庭による社会的養護」をふやす方向性が示された。



そのためには、そもそもの「社会的養護ニーズ」の抑制が必要であり、保育所等による家庭支援の強化が重要であることが議論された。*

*「2016年11月30日 第6回 新たな社会的養育の在り方に関する検討会」。

質の確保・向上に必要と考えられる こと

一人ひとりの子どもに向き合える 保育者の

ゆとり

(手がかけられる)

専門性

(子どもの身体・心理・発達への理解)

経験

(適切な判断・対応ができる)

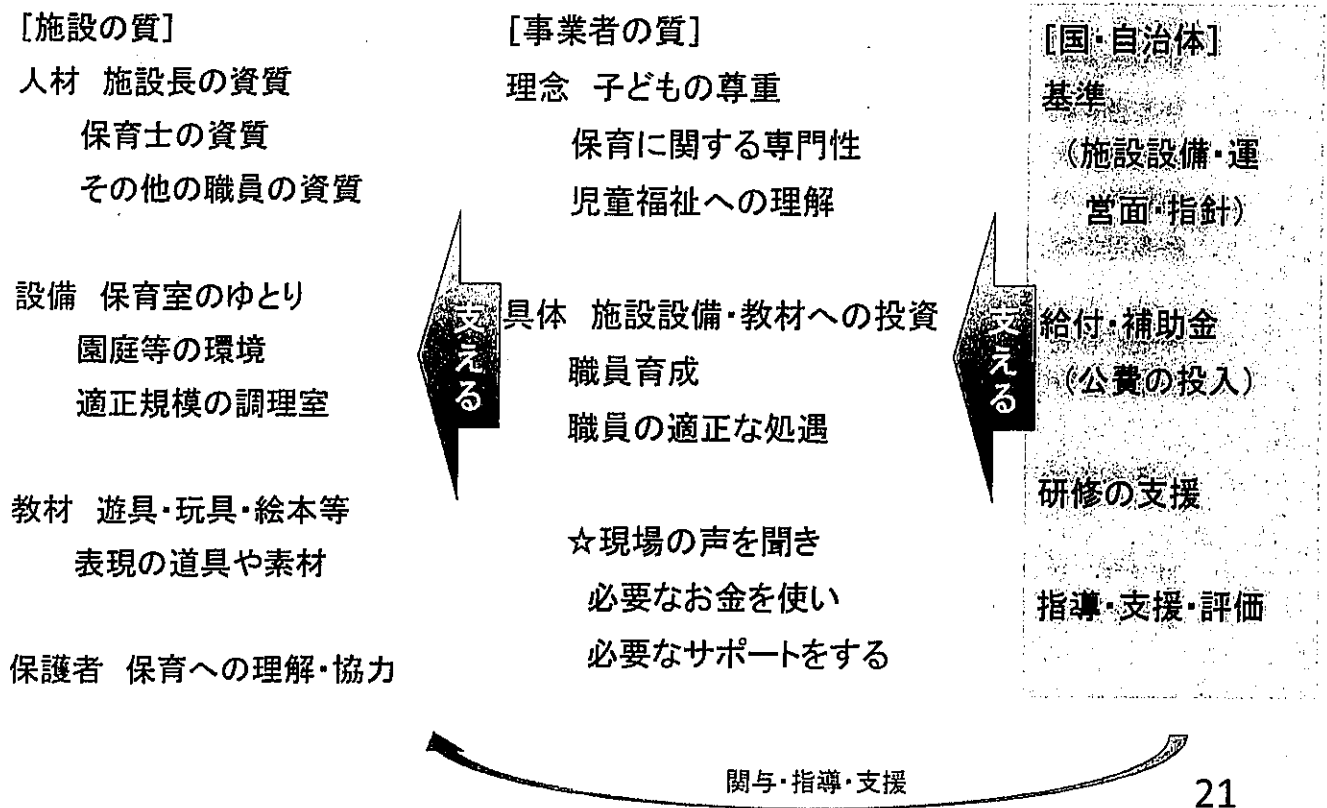
が必要

19

保育の質の向上のために

- 保育士のこまやかな関わり、子どもの主体的な活動、協同的な学びの重要性など、基本的なことがおさえられていない現場への対応。現場のみならず、事業者（経営者）、保護者の理解も必要。
- 「同僚性」を高めることによって保育の質を上げる運営手法などグッド・プラクティスを波及させる必要。
- 研修機会の保障。
- 現場のゆとりをつくる（業務改善、人員増、補助員の配置）
- 人材の確保と定着のためのさらなる方策を。

施策はどのように現場を支えるか



21

[参考]質を確保する施設の外側のしくみ

- ①都道府県等による指導監査
- ②基礎自治体による巡回相談・支援
- ③施設情報の開示(子ども・子育て支援法)
- ④保護者の協働や参画(保護者のかかわりや協力による質の向上)
- ⑤第三者評価

参考資料

- 保育園を考える親の会・臨時アンケート2018
- 保育園を考える親の会・会員アンケート2016 →
- 保育園を考える親の会・会員アンケート2005
- 保育園を考える親の会・全国私立保育園連盟・月刊誌「保育通信」各号連載「ことば」(会員の輪番執筆、2012～2018年分)
- 保育園を考える親の会ホームページ「園選び見学ポイント」
- 普光院亜紀 2011「保育所と保護者の関係性に関する研究 ～1990年代から2000年代の「保育園を考える親の会」の活動を手がかりとして～」(修士論文)
- 世田谷区認可保育所整備・運営事業者選定(審査)評価基準
- 2016年11月30日 第6回 新たな社会的養育の在り方に関する検討会 議事録
- 新たな社会的養育の在り方に関する検討会 2017「新しい社会的養育ビジョン」
- 本検討会・第1回配布資料



「預けたくないと思った理由」の自由記述の全回答。
→

保育の質の確保・向上のために

香川大学 松井剛太

本日の内容

1. 保育の質の捉え方

2. 保育の質の全体像

3. 子どもの声を聴く

4. 保護者の参加を促す

5. まとめ

測定する質と意味づける質

客観的で普遍的なもの

- 客観的な基準を用いて、質を測定する。



客観的なエビデンスが重視される

主観的で多視点から捉えられるもの

- 当事者の主観、多様な視点から「その場」の実践や子どもの経験を意味づける。

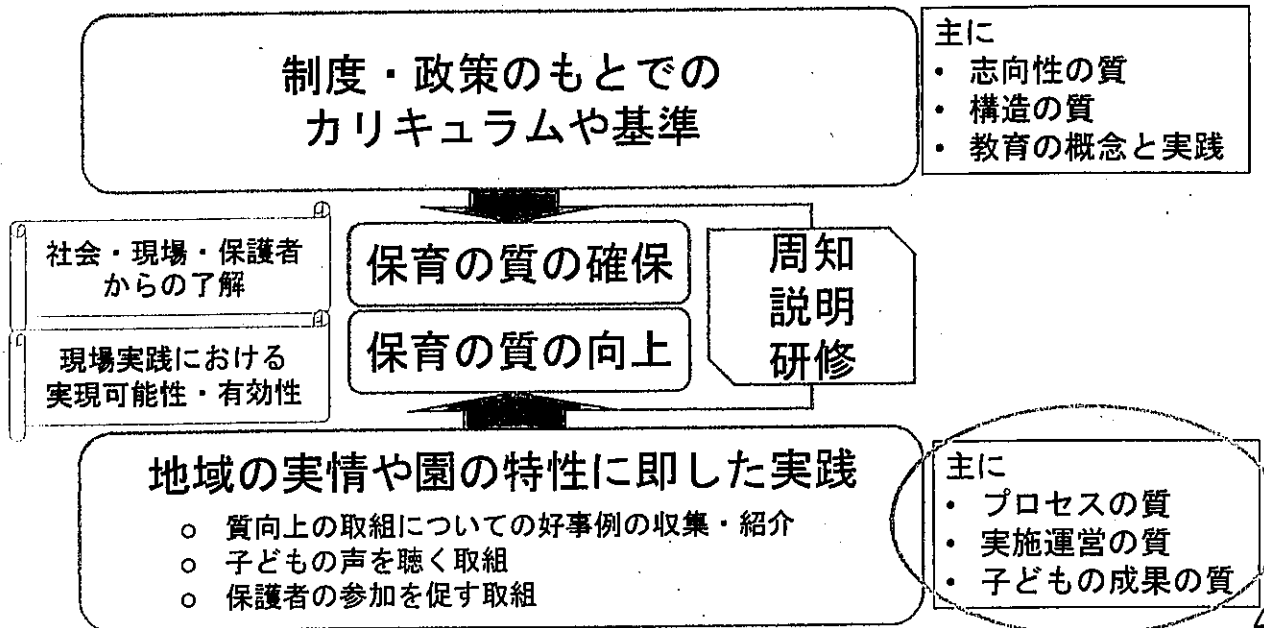


当事者の声（対話）が重視される

Dahlberg, Moss & Pence (2013) 3

保育の質の確保・向上 における全体像

【一部、松井（2018）より作成】



「地域の実情や園の特性に即した実践」 (対話) を質の向上につなげるために

総括的評価 (学びの評価)

- 子どもたちの学びや教育の成果を客観的に提示することを目的とする。

形成的評価 (学びのための評価)

- 子どもたちの学びの支援や教育の改善に活用することを目的とする。

• 保育者1名で評価してよいのか？
客観的な基準がないので、不適當。
保育者間で対話することで、子どもの育ちや学びを読みとり、支援や保育の改善に活用する。

キーワード：
園内研修、同僚性、
風土、リーダーシップ

• 保育者だけで評価してよいのか？
子どもの生活の場は、家庭や地域も含まれるため、不十分。地域社会に根付き、子どもや保護者の声を聴き、支援や保育の改善に活用する。

キーワード：
地域社会に開かれた保育、施設間連携、子どもの声、保護者参加

5

写真を使って子どもの声を聴く

Clark & Moss (2001)

- 4歳、5歳の幼児にデジタルカメラを渡し、施設内の好きな場所を写真に収めてもらう。その後、その理由などを保育者と対話し、子どもの視点から保育環境を見直す。
- 関心が失われつつあると感じていた環境に思いを持っている子どもがいることに気づいた。好きな遊びを撮る子ども、好きな友だちといった環境を撮る子どもなど、環境に対する思いの個性に気づいた。子どもの声による気づきを次の環境構成や遊びの展開に活かすことができた。

植村・松井 (2017)

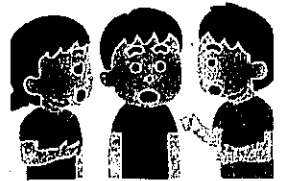


6

3. 子どもの声を聴く

写真を使って子どもの声を聴く

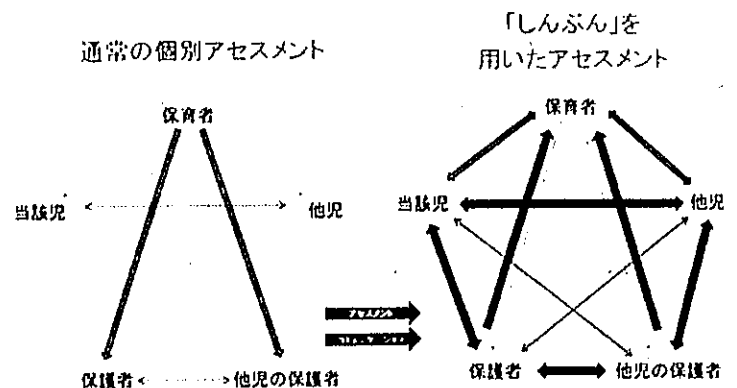
- ホワイトボードに遊びの写真を貼り、子どもたちと一緒に遊びを振り返る。



4. 保護者の参加を促す

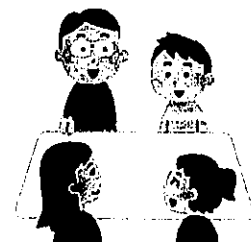
しんぶんの実践

- 保育者がデジタルカメラを持ち、ほぼ毎日子ども宛てに保護者宛てに写真を撮る。子ども宛ては、保育室に貼っておく。保護者宛ては、送迎場所のテラスに掲示しておく。
- 保護者の保育実践への関心を高め、子どもの遊びを「しんぶん」対し、日々の遊びを可能にする。実践へは「しんぶん」を子どもと保護者の間に通す。説明する機会を高める。盛本・松井ら(2018)



ポートフォリオ

- 0, 1, 2歳児クラスを対象に、保育中の子どもの写真、保育者、保護者のコメント欄を設けて、子どもに対してコメントを書く。月に1度のペースで作成する。
- 家族内で子どもの育ちに関する対話が増加し、子どもの成長を家族みんなで喜べるようになった。また、父親は、「ほめる機会が増えた」、「子どもの話を聞くようになった」が増加した。一方、母親は「保育園でやっていることを家でもやってみようになった」が増加した。保育者は、保護者のコメントを通して、園での遊びの参考にした^{松井(2015, 2018)}環境構成に役立てたりした。



まとめ (1)

・保育の質の確保について

質の「教育の概念と実践」は、これまで踏襲されてきた基本的な考え方に加えて、海外のエビデンスも踏まえながら、保育所保育指針で示されている。そこに出てくる「資質・能力」(キー・コンピテンシー)などの鍵概念をわかりやすく示し、対話の機会を作る。カナダでは、公衆衛生の分野で、知見の翻訳(knowledge translation)により、一般向けに視覚化したり、相互交流で意見を出し合ったりする方法で周知・説明が行われている。

まとめ (2)

・保育の質の向上について

保育施設を運営するにあたり、保育者、保護者、地域関係者など、関係者の協力を得て、保育の質を向上させることが重要である。また、保育者の働きやすさや、保育環境の整備など、保育の基盤を整えることも必要である。

今後の検討スケジュールについて（案）

※下記は、現時点での予定であり、議論の状況等に応じて変更があり得る。

2018（平成30）年5月18日（金）13:00～15:00 第1回検討会

- 座長の選任等
- 構成員発表（大豆生田氏、古賀氏、野澤氏）

2018（平成30）年6月12日（火）10:00～12:00 第2回検討会

- 構成員発表（普光院氏、松井氏）
- 関係者ヒアリング（事業者）
 - ・瀬沼幹太氏（社会福祉法人はとの会理事長）
 - ・妹尾正教氏（社会福祉法人仁慈保幼稚園理事長）

2018（平成30）年7月4日（水）10:00～12:00 第3回検討会

- 関係者ヒアリング



※この間、2～3回程度、検討会を開催

- 関係者ヒアリング
- 論点整理（案）の検討・整理

2018（平成30）年8月～9月頃 論点整理

※以後、論点整理に基づき、引き続き検討

（適宜、個別論点に係るWGの設置・検討、調査研究、実態調査等を実施予定）